

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	ホソカワミクロン株式会社 新大阪工場	階数	地上4F
建設地	大阪府枚方市招提田近1丁目9-1	構造	S造
用途地域	工業専用地域、法22条区域	平均居住人員	500 人
地域区分	6地域	年間使用時間	1,680 時間/年(想定値)
建物用途	事務所、工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2020年12月 予定	評価の実施日	2019年2月1日
敷地面積	21,441 m ²	作成者	株式会社大林組大阪本店一級
建築面積	8,270 m ²	確認者	2019年2月5日
延床面積	10,548 m ²	確認者	株式会社大林組大阪本店一級



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO ₂ (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)
<p>BEE = 1.5</p> <p>S: ★★★★★ A: ★★★★★ B: ★★★★★ B: ★★ C: ★</p>	<p>標準計算</p> <p>①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+</p> <p>このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです</p>	

2-4 中項目の評価(バーチャート)		
<p>Q 環境品質 Qのスコア = 3.2</p>		
<p>Q1 室内環境 Q1のスコア = 3.5</p>	<p>Q2 サービス性能 Q2のスコア = 3.6</p>	<p>Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア = 2.5</p>
<p>LR 環境負荷低減性 LRのスコア = 3.5</p>		
<p>LR1 エネルギー LR1のスコア = 3.4</p>	<p>LR2 資源・マテリアル LR2のスコア = 3.9</p>	<p>LR3 敷地外環境 LR3のスコア = 3.2</p>

3 設計上の配慮事項		
<p>総合</p> <p>LED照明を採用し省エネルギー性に優れ、環境負荷を低く抑えられる建築物となるように配慮した。 敷地内には既存を含め、可能な限り平面と屋上に緑化を計画することで、周辺に溶け込む建物となるよう計画した。</p>	<p>その他</p> <p>特に無し。</p>	
<p>Q1 室内環境</p> <p>事務所スペースには、吸音材を積極的に採用し快適な空間となるように配慮した。</p>	<p>Q2 サービス性能</p> <p>仕上材及び配管部材は耐久性の高い部材を選定し、性能が長期保たれるように配慮した。また壁長さ比率を低く設定し、高い階高を確保することで、将来フレキシブルにプラン変更等に対応が出来るように計画した。</p>	<p>Q3 室外環境(敷地内)</p> <p>周辺に開けた建物となるように、建物周辺には緑化を積極的に確保したほか、隣地とは極力距離を設ける配置計画とした。</p>
<p>LR1 エネルギー</p> <p>断熱材は高断熱のものを使用し、建物内設備にはLED照明等高効率設備を採用することで、建物から発生するエネルギー量の低減に努めた。</p>	<p>LR2 資源・マテリアル</p> <p>建築部材は特定調達品目及びエコマーク商品を積極的に採用し、節水にも配慮した設備を取り入れることで、環境負荷の低減を図った。</p>	<p>LR3 敷地外環境</p> <p>建設に伴って発生するCO₂の発生量を低く抑えることで、地球温暖化防止に寄与した。</p>

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

大阪府建築物環境配慮評価システム2018年版 大阪府の重点評価(結果)

受付番号

H30-0143

Osakafu-新築・既存 2018V1.0

【建物概要】	建物名称	ホソカワミクロン株式会社 新大阪工場建設工事						
	建設地	大阪府枚方市招提田近1丁目9-1、9-2、10-3、10-6						
	用途/区分	工場 事務所						
【評価結果】	CASBEE 総合評価						A	
①	CO2削減						4	
②	みどり・ヒート アイランド対策						2	
③	建物の断熱性						5	
④	エネルギー削減						3	
⑤	自然エネルギー直接利用						○	
	再生可能エネルギー 利用施設の導入状況	太陽光発電	○	風力	—	地熱	—	—
		太陽熱利用	—	水力	—	バイオマス	—	—
	エネルギー消費量の報告						報告しない	
【評価項目】								
	項目	評価内容					スコア	評価
①	CO2削減	CASBEE「LR3-1」のスコアによる評価					3.7	4
②	みどり・ヒートアイランド対策							
	生物環境の保全と創出	CASBEE「Q3-1」のスコアによる評価					2.0	2
	敷地内温熱環境の向上	CASBEE「Q3-3. 2」のスコアによる評価					3.0	
	温熱環境悪化の改善	CASBEE「LR3-2. 2」のスコアによる評価					2.0	
③	建物外皮の熱負荷抑制	CASBEE「LR1-1」のスコアによる評価					5.0	5
④	設備システムの高効率化	CASBEE「LR1-3」のスコアによる評価					3.4	3
⑤	自然エネルギー利用	CASBEE「LR1-2」のスコアによる評価					4.0	○
	エネルギー消費の実態把握に努める	エネルギー消費量の実績を3年間報告する。					報告する 報告しない	報告しない
その他								
		技術の名称			考慮事項			
	先進的技術の導入							
	特に配慮した事項	特に無し						